

4.1.3. 低地の森林

(1) 植物

市内の低地は、かつてシイ、タブ、クスなどの常緑広葉樹に広く被われ、一部の湿った場所にはエノキ、ムクノキなどの落葉広葉樹が生育していたものと思われます。しかし、これらの林は昔から水田などの耕作地や住宅地をつくるために伐り開かれてきたことから、現在は、三嶋大社などの社寺周辺の森林、楽寿園などの公園、松毛川沿いの林などわずかな場所に残っているだけです。このような低地の森林では、**100科 264種**の植物が確認されました。

高木層⁽¹⁰⁾には、スダシイ、タブノキ、クスノキ、エノキ、ムクノキをはじめとして、アラカシ、カゴノキなど、低木層⁽¹²⁾にはヒサカキ、ヤブニッケイ、シロダモ、ヤブツバキ、ヤツデ、アオキなど、林床には、ヤブコウジ、ヤブラン、キツタ、テイカカズラ、ベニシダなど、暖地に生育する植物が見られます。

このような樹林からは、昔の自然の様子をうかがい知ることが出来ます。未来の人たちのためにも大切に残していきましょう。



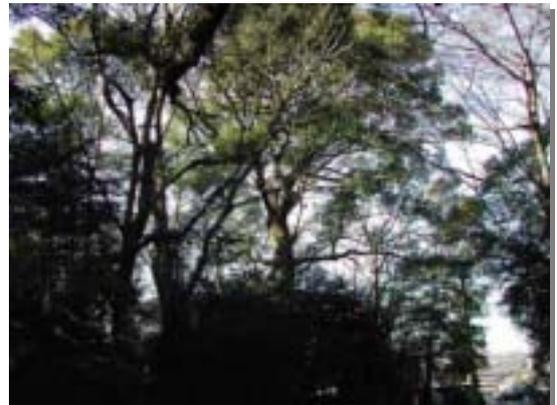
春 2002/4/3



夏 2002/7/9



秋 2002/10/10



冬 2003/1/9

(三嶋大社)

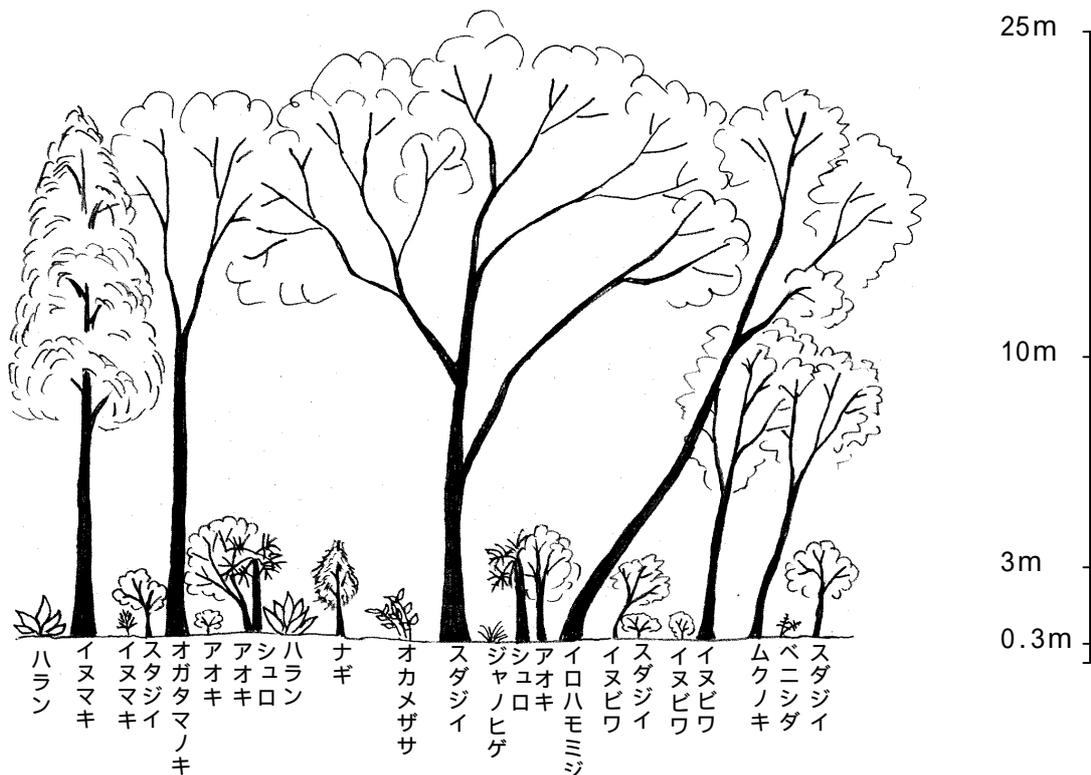


図 4-1-3 スタジイ群落(楽寿園)の模式断面図

スタジイ(ブナ科)



暖地に広く見られる高さ 20m 程の常緑木本⁽³⁵⁾です。照葉樹林の代表的な樹種で、カシ類などとともに多く見られ、暖温帯の極相林⁽³⁶⁾を形成しています。幹は黒褐色で、太くなると樹皮に縦の深い裂け目がたくさんできます。ドングリは食用にされ、材は建築材やシイタケ栽培のほだ木として使用されるそうです。三島市内では、三嶋大社などの社寺林、楽寿園などの公園に大木が残されています。

【撮影：2002/11/28 佐野】

クスノキ(クスノキ科)



暖地に広く見られる高さ 20m程の常緑木本⁽³⁵⁾です。樹木全体に樟脳(しょうのう)を含む芳香があり、葉、枝、幹から防虫剤が作られたと言われています。同様に、材は虫に食われにくく、加工しやすいため、建築材や彫刻材として利用されています。生長が早く大木となるため、古くから神社などに植えられてきました。幹の直径が 2m を越える大木も見られ、天然記念物に指定された巨樹、老木も少なくありません。

【撮影：2002/11/28 沢地】

タブノキ(クスノキ科)



暖地に広く見られる高さ 15m 程の常緑高木です。シイと混じり生育しますが、シイよりも潮風に強いいため、海岸近くの低地ではタブノキ林となります。タブノキの材はやや硬く、腐りにくいいため、土台や板などの建築材や枕木、彫刻材などに広く使われます。タブノキもクスノキと同じように大木となります。

【撮影：2002/11/22 多呂】

エノキ(ニレ科)



溪谷沿いの土壌が肥沃な斜面に生育する高さ 20~25m 程の木本です。乾燥地や過湿地にも生育することができます。9 月には、赤褐色をした甘い実を付け、鳥の重要な餌のひとつになっています。葉は、日本の国蝶に指定されているオオムラサキの幼虫の餌なので、オオムラサキ保護のため、エノキを植林している地域もあります。

【撮影：2002/4/9 佐野】

ムクノキ(ニレ科)



丘陵の日当たりの良い所や雑木林に生育する、高さ 20~25m 程の木です。4 月下旬頃に花が咲き、秋になると、黒紫色に熟した直径 7mm 程の果実が実ります。材は強靱なので、建築材、器具材に使われているそうです。

【撮影：2002/12/2 楽寿園】

チャノキ(ツバキ科)



高さ 2m 程の常緑木本です。10~11 月になると、枝先の葉の腋に直径 2~3cm の白い花を下向きに咲かせます。古く中国から輸入された栽培植物で、葉が茶の原料になります。県内はお茶の生産が多く、逃げ出したチャノキを樹林内で見ることがあります。

【撮影：2002/11/14 楽寿園】

ヤブラン(ユリ科)



高さが10~20cm程の常緑の多年草(20)です。山地や低地の林内で一般的に見ることができ、栽培もされています。8~10月には、葉の間から茎をだし、先に淡紫色の細長い花序(33)をつけます。やぶに生え、ランに似ていることから、「ヤブラン」と名付けられました。市内では、松毛川の河辺の林や楽寿園などで見ることができます。

【撮影：2002/8/1 松毛川】

ベニシダ(オシダ科)



暖地に生育する高さが60~100cm程の常緑のシダ植物です。若葉が紅色になることから、「ベニシダ」と名付けられました。照葉樹林に多く、しばしば優占種となります。トウゴクシダ、オオベニシダなど、似たような種類がたくさんあります。市内では、常緑樹林、植林下などで見ることができます。

【撮影:2002/7/29 玉沢】

イノデ(オシダ科)



暖地のやや湿った林に生育する高さ50~80cmの常緑のシダ植物です。イノデは「猪手」で、褐色の鱗片(37)におおわれた若葉を見立てたものだそうです。

アスカイノデ、イノデモドキなどイノデも種類が多く、仲間同士で雑種をよくつくります。市内では、常緑樹林、植林下などで見ることができます。

【撮影：2002/4/3 北沢】

ウラシマソウ(サトイモ科)



樹林下や林縁に生育する高さ30~50cm程の多年草(20)で、日本固有(32)の植物です。花序(33)の先が長く伸びることから、浦島太郎の釣り糸にみたててこの名がつけました。3~4月頃、葉を出すのと同時にヘビのような花をつけます。この仲間は若い個体は雄株で、成長し栄養状態がよくなると雌株にかわります。

【撮影：2002/4/19 三嶋大社】

(2)動物

低地の森林として、三島市立公園楽寿園と三嶋大社を選び調査を行いました。その結果、哺乳類1科1種、鳥類23科44種、は虫類1科1種、両生類2科2種、昆虫類99科277種が確認されました。

哺乳類

調査を行った楽寿園で、タヌキが写真撮影により確認されました。調査期間中ほぼ毎晩撮影され、楽寿園内をよく利用しているようでした。楽寿園職員からは「以前園内で子供を産んだことがある」との聞き取り情報も得られました。なお、以前はハクビシンなども棲んでいたようですが今はいないようです。市街地内の森林であっても、山地から林が連続している場合は他の哺乳類も生息できる場合がありますが、楽寿園や三嶋大社の場合は市街地の中に孤立した森林となっていますので、多くの哺乳類にとって生息しにくい環境になっていると思われます。

鳥類

三嶋大社、楽寿園ともに大木の多いまとまった森林なので、鳥類はとても多く生息していました。一年を通じてキジバト・コゲラ・ヒヨドリ・メジロ・ハシブトガラスなどが見られました。樹洞ではムクドリやシジュウカラなどが繁殖しており、初夏に渡来するフクロウ類のアオバズクも鳴いていました。森林内のクロガネモチ樹上ではタカ類のツミが繁殖し、4羽の雛が巣立ちました。また、園内の池にはカワセミ・サギ類・カモ類なども度々飛来し、餌を捕っていました。

は虫類・両生類

は虫類では、三嶋大社神池でアカミミガメが確認されたただけでした。他の種も生息していると思われるのですが、生息数は大変少ないようです。

両生類では、楽寿園でアマガエルとモリアオガエルが確認されました。ニホンアマガエルは住宅地などでも一般的に見ることができるカエルですが、あまり数は多くないようでした。モリアオガエルは園内の「万葉の森」で確認されました。散策路の横にある小さな池ではモリアオガエルのオタマジャクシも見ることが出来ます。鳴き声で確認した限りでは生息数は多くないと思われました。なお、モリアオガエル・アカミミガメ共にもともといたものではなく、人によって外から持ち込まれたと考えられます。

昆虫類

調査を行った楽寿園は、市街地にありながらまとまった森林が残されていることから、比較的多くの昆虫類が確認されました。園内のクヌギでは、夏に樹液に集まるカブトムシ・カナブン・コクワガタを見ることができます。園内の池ではギンヤンマ・ショウジョウトンボの他、アメンボ・コマツモムシなどの水中にすむカメムシ目の昆虫が確認されています。センチコガネ・コブマルエンマコガネなど獣糞を餌とするコウチュウも比較的多く確認されましたが、これは園内にタヌキが生息していることや、動物園が併設されているためと考えられます。また、今まで清水市以西に分布するとされていた屋外性のヒメクロゴキブリや、近年分布を広げているウスグモスズ(バッタ目)、ミナミトゲヘリカメムシ(カメムシ目)、外来種のアオマツムシ(バッタ目)が確認されました。

タヌキ



やや小型のイヌ位の大きさです。雑食性で、果物や昆虫類等を餌としています。都市部のタヌキは、残飯を主な餌にしていることも多いようです。主に夜間活動し、昼間は木の根元のくぼみや民家の軒下、排水溝などに潜んでいます。

【撮影：2002/3/1 楽寿園】

イボバツタ



体長 25～35mm で、褐色に暗褐色のまだら模様があるバツタです。頭部と胸の背面にイボ状の突起があることからこの名前がつけました。7～11月に、畑や道端などの土の上にいるのをよく見かけます。

【撮影：2002/9/25 楽寿園】

キジバト



一年を通じて市街地や山林等のあらゆる環境に生息し、暖かい地方では一年中繁殖しています。街路樹などの木の枝に皿型の巣をかけます。雌雄同色で、一緒に餌を探す姿を見ることができます。植物の果実や花、芽などを主な餌にしています。

【撮影：2002/6/17 楽寿園】

ツミ(巣立ち雛)



オスはヒヨドリ大、メスはハト大のタカ類で、低地から高い山まで広く生息します。主な餌は鳥類で、時には自分よりも大きな獲物も捕まえる事があります。近年、市街地での繁殖が各地で知られるようになっていきます。

【撮影：2002/9/24 楽寿園】